第１回射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会　会議概要

１　開催日時　平成30年8月31日（金）午後3時00分～4時10分

２　場所　　　市役所401会議室

３　出席者　　（推進委員会委員）青井忠嗣、石津孝治、石黒勝久、岩本健嗣、篠田宏美、春日哲男、高橋幸博、谷井寿好、徳島紀子、古谷直樹

（当局）島木企画管理部長、一松財務管理部長、原市民生活部次長（部長代理）、倉敷福祉保健部長、片岡産業経済部長、津田都市整備部長、松長教育委員会事務局長、板山市民病院事務局長、小塚企画管理部次長、宮本農林水産課長、中川港湾・観光課長、小川建築住宅課長

（事務局）渡邉未来創造課長、坂井課長補佐、安念主任

４　議題

（1）関係資料の説明及び意見交換

５　会議の経過

**（１) 総合戦略の進捗状況について**

**事務局から、資料１、資料２を説明**

委員長：資料１のＰ２の人口について、これまで出生者数も順調に伸びてきたが、平成２９年は３年ぶりに減少している。この原因については捉えているのか。

事務局：数値については、毎年バラつきがあること、また複数の要因から生じるものであることから、単年度の減少について、要因を断定的に述べることは難しい。

委　員：Ｐ５の児童生徒数について、小学校において大幅に改善、中学校において悪化している。その要因は。

事務局：市としてもいろいろな関係機関と取組を進めている。平成２９年において中学校において悪化しているが、その年によってバラつきがある。長いスパンで目標のとおり減少させるべく取り組んでいる。今年度増えたことについては、個々の取組の積み重ねの結果であり、重く受け止めているが、要因については様々な例があるため、ここで明確に申し上げることはできない。

委　員：安心して働ける環境のためにもがんばって欲しい。

委員長：専門機関との連携とあったが。どのような連携をしているのか。学校だけでは問題は解決しない。連携の中身について教えて欲しい。

事務局：いじめ等の不登校の要因等については、教員はもとより、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童相談所、場合によっては、医療福祉の外部の専門家の方にも相談しながら個々の対応にあたっている。

委員長：射水市として、仕組みが出来上がっているということか。

事務局：それぞれのケースに応じてケース会議を開催するとともに、部局間の連携を図り、福祉部門、教育委員会だけはなく様々な関係部局と個々の事例に対応している。

委　員：人口が2060年に72,000人を目指すとのことだが、その前提条件は。また、地域の魅力発信について行われているほか、子育て関係にも力を入れているとのことだが、全国でも地方への移住を推進するための様々施策が展開されている、他市との差別化はどのように図られているか。

事務局：目標人口の試算の前提条件については、合計特殊出生率が徐々に回復することによって2030年に1.853、2040年に2.07になるとの前提で試算している。

委　員：他市との差別化を図って魅力的な施策を行い人口維持を図って欲しい。

事務局：差別化の点については、子育てするなら射水市で、学ぶなら射水市でというキャッチフレーズにて取り組んでいる。子ども医療費については県内で初めて第３子まで無料化するなど各種子育て支援に力を入れている。しかしながら、他市が追いつき横並びになっているのが現状である。

最近、射水市として力を入れているのは、学びの部分に加え、最近特に目立つ発達障害についてである。そこで、旧大門庁舎を改修し、子ども子育て総合支援センターを開設し、いろんな相談を受けたり、医療機関へのつなぎとして保健師が常時相談対応している。室内、室外で遊べる環境も整備しており、子育て支援センターの年間利用者数が右肩下がりであったものが、平成２９年は増えており、効果が出始めている。

また、保育料は市町村において異なっているが、射水市は低い水準に抑えている。基礎的な部分で負担を小さくするなどして子育て支援を行っている。

委員長：発達障害については、これからますます重要になってくる。非常にいい取組なのでこのまま伸ばしていっていきだきたい。

事務局：学びの部分では、「授業がよく分かる児童・生徒の割合」を増やすために、学習サポーター40名、チームティーチング指導員8名、小学４年生の段階で、学習の遅れを未然に防ぐため、補充学習を行う指導員を４名配置するなど、他市と比較しても多く配置している。

委　員：2つほど教えていただきたい。先ほど社会動態の中で外国人転入者の話がでた。現在、企業活動の中では人材不足があり、外国人労働者に頼らざるを得ないという部分が大きくなってきている。最近、ベトナム人の方やインドネシアの方々が就労されていると状況だと認識しているが、外国人の方々がどの程度増えているのか。また、どのように管理されているのか教えてほしい。

外国人労働者の周辺住民とのトラブルがよくある。この点については射水市では何もないのか。別の市町村では外国人の労働者を雇いたいが、雇う場所がないなど大きな問題になっている地区もある。この点について教えて欲しい。

５Ｐに書いてあるが男女出会のイベントはとても良いことである。少子化の中でまず、結婚しないと子供が生まれない。なかなかイベントを開催してもカップルになれるのはごくまれである。このカップルができることはとても素晴らしい。このカップル２０組は結婚されたという意味か。

７ページ目、産学官金連携による共同研究の年間件数が１１件となっている。これもとても素晴らしい。銀行ではお客様に対して大学等の紹介をさせていただいている。この１１件はどういった経緯で実施されたのか。

事務局：外国人の方の住民数については平成３０年１月１日現在、射水市では２，２００人余りの外国人の方が住んでいる。対前年では１９１人の増となっている。県内の状況を見ると、射水市が県内で一番人口に占める割合が大きい状況である。

転入された方の対応については、射水市独自ではごみの出し方等について５か国語のパンフレットを用意している。県では外国人が日本の生活に馴染めるようなセミナーや講座を実施されている。

　　　　　男女の出会いの関係だが、２１件のカップルのうち、成婚にいたった件数は聞いていない。また、イベント時にはカップルにならなかったが、イベントがきっかけでその後お付き合いして結婚された方が２組いると聞いている。

　　　　　外国人の国別の数については、一番多いのはフィリピンで、次いでパキスタン、中国、ブラジルとなっている。

事務局：産学官金の連携による共同研究については、近年、富山県呉西圏域で事業をしており、その中で、ものづくり開発相談会をしていて県内の富山県立大学、富山大学の学術研究機関での調査などを依頼している。

共同研究内容については、企業が直接大学に共同研究を申し込んでおり、その内容については資料を持ち合わせていない。大学からの報告件数である。

委　員：サクラマスのことだが、取扱店舗数が平成２９年度で２９店舗ということだが、テストマーケティング等、無料で提供したものも含まれているのか。内訳があれば教えて欲しい。

また、ブランドの魚で近代マグロが話題になったが、関西の居酒屋で出されていた刺身は美味しくなかった。店の扱い方によっては、ブランドについて逆効果になってしまうことがある。取扱いはどのようにしているのか。

事務局：２９店舗については、ＪＲが店舗を開拓して首都圏の東京を中心に取扱いをしており、大阪でも１店舗で販売させていただいている。事前にサンプル提供をし、試食していただき商品化できるかを感じていただいて、販売につながったのが２９店舗である。県内でも、ＪＲの関係では、五万石千里山荘等で期間限定販売している。ＪＲ以外では、堀岡養殖漁業から直接市内の仲卸業者や、きときと市場等で販売させていただいている。

委　員：資料の５ページ目の地域の行事に参加している児童生徒の割合についてあるが、地域で活動している方から、行事に生徒達にも参加して欲しいといっても学校行事等で忙しため、なかなか参加してもらえないと聞く。行事に参加するよう何か働きかけ等があったのか。

事務局：子供達を参加させるには学校、家庭、地域が連携しながら取り組んでいくことが必要であると思っている。地域の行事にも生徒が参加することについては学校を通じて子供たちに推奨している。

教員の多忙化等も含めて、中学校の生徒の数字を見ていただいたとおり、小学生より参加率が悪いのは部活動等の影響が大きいと思っている。週に２日間は休部日を作るという取組を進めている。こうした取組により、家庭、地域に戻っていろんな活動に参加しいただく機会が増えていくのではないかと思っている。できた時間を地域活動にも振り向けるよう引き続き推奨していきたい。

委員長：今の件について、私も少し関連しているが地域のイベントや行事をされる方は大学の学生に参加してほしいと言ってくるが、多くの場合、日程や内容が全部決まってから来られるので、大学にとっては難しいこともある。お互いのスケジュ―ルの調整などの情報共有の取組があればいいと個人的に思っている。

委　員：ＫＰＩというものは目標に対して数字で目標を設けて検討するためのものであると思うが、９ページの表の一番下を見ると、実績が棒線でデータが入っていないものがあるがこれは何故なのか。

事務局：２９年度において学生に対するアンケートを実施しなかったので数字が入っていないということでこのような表現となっている。平成２７年度に実施した際は２１％で基準値と比較して１ポイントの増となっている。

委員長：今後は、しっかりと調査していくということでいいか。

事務局：しっかりと調査していく。

委　員：数値に対する実績のところで数字が０件というものが２つあり、７ページの６次産業化の実績が０件、目標は２件だが０件、次ページの空き家の利活用についても０件である。目標も余り高くないが０件で推移している。なかなか難しい面があるのか。これについてはどのような認識か。

事務局：７ページの６次産業化推進の案件だが、相談については３件あった。市の担当者も同席し、県へ補助制度の相談に行っている。しかし事業化まではたどり着いていないのが現状である。

委員長：サクラマスは６次産業化の１件として数えられるものではないか。

事務局：サクラマスついては入れていない。

委員長：何か理由があるのか。サクラマスは１件として数えても問題はないと思うが。

事務局：サクラマスは大門漁業協同組合、堀岡養殖漁業組合や生産者である鱒寿司や、料理店などは６次産業化というイメージではなく、それぞれの企業が連携して事業を進めている。ここの項目にあげている６次産業化は、農家や営農組合が自分の生産した物を製品に加工してそれを直接販売するイメージなので、サクラマスとは少し違っている。

事務局：市内の空き家件数は１，５００件を超え、毎年増えている。対策については、不動産業者と連携し、空き家物件を空き家情報バンクに登録していただき、物件情報を広く一般に広報している。また、県外移住者については、空き家情報バンクの登録物件の購入費の１／２、限度額３０万円を補助するなど、いろいろと施策を講じているが、なかなか難しい状況である。

委員長：他にはないか。

ないようでしたら以上で協議事項を終了させていただく。長時間ありがとうございました。